

## 国際交渉力強化プログラム

坪井美樹<sup>1</sup>

### 1. 国際交渉力強化プログラム（略称：GNP）とは（スライド 1,2）

国際交渉力強化プログラムとは、正式名称は”Postgraduate Certificate Program in Global Negotiation Program”のことで、省略して”Global Negotiation Program”といます。頭文字をとって GNP という覚えやすい略称にしました。



Postgraduate Certificate Program in Global Negotiation  
国際交渉力強化プログラム（略称：GNP）の紹介

2011(平成23)年12月22日  
シンポジウム「大学院における共通的教育—これまでとこれから」  
(筑波大学大学研究センター 第53回公開研究会)

GNP統括長  
人文社会系 教授  
坪井 美樹  
Yoshiki TSUBOI



1

### スライド 1 国際交渉力強化プログラムとは①

運営費交付金特別経費(プロジェクト分)事業として、いわゆる競争型の公募資金ではないが、特別にプロジェクトとして認められ運営費交付金のお金をいただいています。2011(平成23)年度スタートして2014(平成26)年度まで4年間、予定総額473,250千円でやります。事業名は表題の国際交渉力強化プログラムと微妙に違って、「国際交渉力強化のための人材養成プラットフォーム形成」であり、最終的な事業の目標であります。国際交渉力プログラムは人材養成プラットフォーム形成に至るまでに試行的に参加している組織間で具体的に動かしている教育プログラムの名称であります。GNP自体を広めようというのではなくて、大学のいろいろなところで異分野融合型の国際人材養成が起こって、そこでそれぞれ人材育成目標に沿って、専門に沿って、それぞれのプログラムが考えられればいい。そのプラットフォームを最終的には作りたいということです。GNP事業実施主体は3つの組織で、人文社会科学部(9専攻)、ビジネス科学研究科(国際経営プロフェッショナル専攻の修士課程)、人間総合科学研究科(世界遺産専攻、世界文化遺産学専攻)です。文科系ではありますがかなり性質が違う分野の3つの組織でコラボレーションというか異分野協働型でやります。

<sup>1</sup>筑波大学 国際交渉力強化プログラム統括長

【事業の種別】 運営費交付金特別経費(プロジェクト分)事業

【事業名】 国際交渉力強化のための人材養成プラットフォーム形成

【概要】 複数の大学院組織が共同して専門・履修態様の違いを超える異分野融合型教育を工夫して実施することにより、国際的な交渉・対話の場でリーダーシップを発揮し、問題を解決し合意を形成していく実践的な能力を持つ人材を養成するための教育システムを構築する。

【事業実施主体】 人文社会科学研究科(全専攻)、ビジネス科学研究科(国際経営プロフェッショナル専攻)、人間総合科学研究科(世界遺産専攻・世界文化遺産学専攻)

【事業計画期間】 平成23年度～平成26年度(4年)

【事業実施経費予定総額】 473,250千円



2

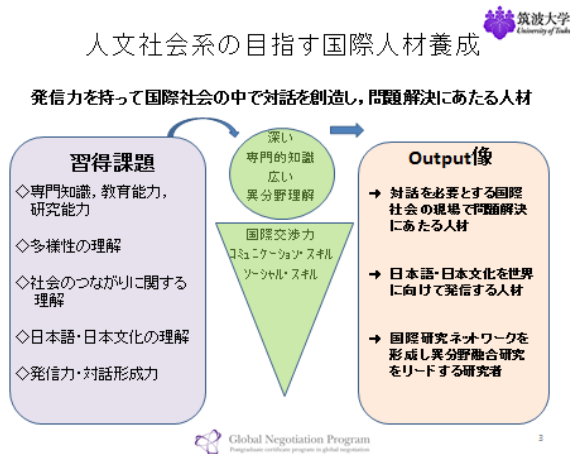
## スライド2 国際交渉力強化プログラムとは②

### 2. 3 組織による異分野融合型教育

#### 1) 人文社会系の目指す国際人材養成 (スライド3)

2011(平成 23)年度概算要求のときに、最初は3つの組織がそれぞれ自分の考える人材養成像の certificate プログラムを開始したいと申請しました。しかし、それぞれの専門を基盤として共通する国際社会で交渉力を持って具体的な問題解決にあたる、そういう人材を育てたいということで一致しました。先ほど文系には「価値」という言葉にうるさいという話がありました。同様に、私どもの人文社会科学研究科も妙に言葉にうるさい人が多い領域で、「対話を創造する」「対話マネジメント能力」といった、もっともらしいけれどもよくわからない言葉で出していました。そうしたところ、当時の財務企画課長さんが「3つは同じような感じなので、いっそわかりやすく『交渉力』で行きなさい。」と勧めてくれたので『国際交渉力』ということになりました。人文社会科学研究科としては、専門知識だけでは世の中進まないし、研究者だけ作っていたのではしょうがない。大学という狭い社会だけでなく、実社会、国際社会の中で博士号を活かしているいろいろな仕事ができるようにしていきたいということです。我々自身がそうではないだけでなく、育てたことがないので、我々の力だけでなく外部の力も借りて、大学の中の他の部門とも一緒にやろうということで始めました。我々3組織が考える OUTPUT 像は、①対話を必要とする国際社会の現場で問題解決にあたる人材、②日本語・日本文化を世界に向けて発信する人材、③国際研究ネットワークを形成し異分野融合研究をリードする研究者、であります。

人文社会系の目指す国際人材養成

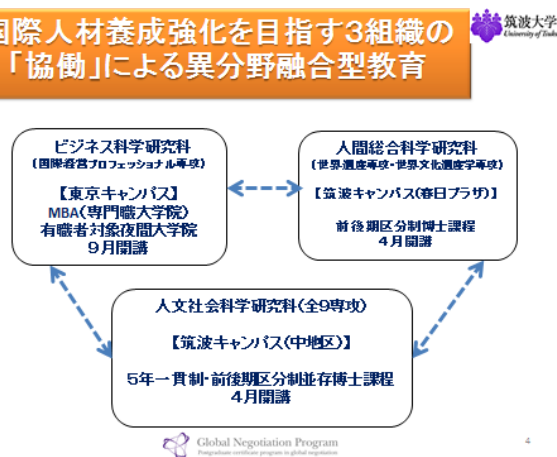


スライド3 人文社会系の目指す国際人材養成

2) 国際人材養成強化を目指す3組織の「協働」による異分野融合型教育 (スライド4)

ビジネス科学研究科(国際経営プロフェッショナル専攻)は有職者対象の夜間 MBA コースで、東京キャンパスにあり、9月開講です。それに対して人文社会科学研究科(全9専攻)と人間総合科学研究科(世界遺産専攻・世界文化遺産学専攻)は筑波の中地区、春日地区にあり、性質もだいぶ違います。人文社会科学研究科は大きくて、5年一貫制の専攻と前後期区分制並存博士課程、4月開講です。人間総合科学研究科は前後期区分制博士課程で4月開講というように、学生の受講サイクルですら合わない。まず手始めに自分と違う異文化の人に出会い、そこからさらにもっと違う人に出会ってもらおうということで、大変だけど何とか3組織でやろうということになったのであります。

国際人材養成強化を目指す3組織の「協働」による異分野融合型教育



スライド4 国際人材養成強化を目指す3組織の「協働」による異分野融合型教育

### 3) 国際交渉力強化プログラムが目指す異分野融合型教育の工夫 (スライド5)

通常の座学中心のやり方ではダメ。国際交渉力は話して済む問題ではないだろう。教育方法を工夫しなくてはならない。そのように考えて以下の工夫をしています。

#### ◆履修者に最適な個別履修デザイン

それぞれの専攻がディシプリン型であるのに対して、GNPは個別に学習者が中心となって何をやるか、何を望むか、何を学びたいか、将来どうなりたいかを考える。考えるのを手助けして相談に乗る。こういうことを勉強したいのであれば、それではそういうことを何とかしよう。教員側が作ったカリキュラムではなくて、自分自身に履修デザインをしてもらう。プログラム・コーディネーターによる密接な指導・助言・対話によってモチベーションを形成してくるようにします。

#### ◆海外との遠隔授業

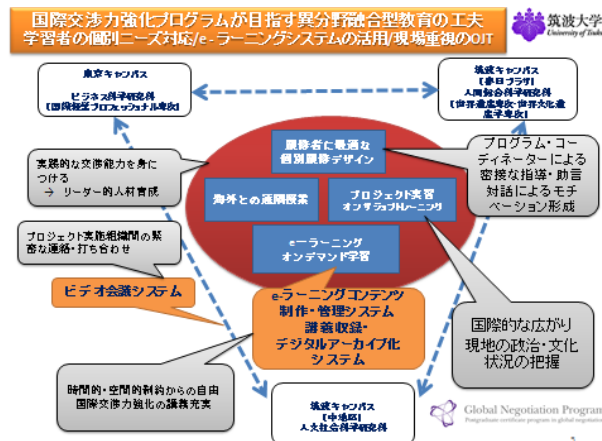
eラーニングシステムを使って時間的・空間的制約を乗り越える授業にしていきたい。

#### ◆プロジェクト実習：オンザジョブトレーニング

国際交渉力なので、国際的な現場、海外に出て行く、海外から人を集めて何か日本でやるということを自分自身で企画マネジメントして実行してもらう。それを教員が支援し、手助けし、指導する。失敗してもいい。国際シンポジウムをやりたいのであれば、GNPで許される資金を支援する。ダメでも断られても、実行したことがかみ合わなくても、それはそれで教訓として次に活かしてもらう。あるいは自分の専門の方にフィードバックして自分の研究を組み立てなおしてもらう。そのようなことを認めていこうというプログラムです。国際的な広がりや現地の政治・文化状況を把握できるようにしていきます。

#### ◆eラーニング：オンデマンド学習

eラーニングシステムで行う授業をみんなが同時に聞けることが少ないので、オンデマンド型にしよう。オンデマンドは便利だが、それで国際交渉力がつくわけがない。この知識だけに頼られるのが一番怖いので、オンデマンドの脇に必ず教員がついて学生が学んだことを測りながら進めていくようにしています。



スライド5 国際交渉力強化プログラムが目指す  
異分野融合型教育の工夫

4) 国際交渉力強化プログラム (GNP) 開講授業科目 (スライド6)

GNP の開講授業科目は以下の通りです。3 組織が共同で提供し、デジタルアーカイブ化してオンデマンド配信する授業で、英語のプログラムです。

◆共通必修科目の「戦略的交渉論」(3 単位)で、基本的なモチベーションを 3 組織の学生・教員の間でお互いに確かめ合います。

◆選択必修科目では、市民社会系、国際ビジネス系、国際協働系のそれぞれ 6 科目、合計 18 科目の中から 6 科目 (6 単位) を選択して履修します。これは、配信型授業・eラーニング・集中講義で行います。

- 市民社会系：市民社会国際交渉学、文明対話学、紛争管理論、異文化コミュニケーション論、社会技能論、コミュニケーション技能論
- 国際ビジネス系：“Management of Innovation”, “International Business Negotiation”, “Regional Management Studies”, “Comparative Organization Behavior”, Presentation Skills for Global Management”, “Leadership in Organization”
- 国際協働系：国際機関の役割、世界遺産と国際協力、世界遺産と市民参加、世界遺産と持続可能性、プロジェクト・マネジメント1、プロジェクト・マネジメント2

◆プロジェクト実習で、インターンシップ、現地調査、国際会議マネジメントなどの実務的なことをやります。2つの実習を履修しますが、2つの実習のうち1つは必ず自分の所属しないところが主に担当する実習を取ります。

- 市民社会系プロジェクト実習：日本語教育実務者ネットワーク、社会事業起業ネットワー

ク、国際比較日本研究者ネットワーク、市民社会交渉学

- 国際ビジネス系プロジェクト実習：ODA 現地調査、地域特定型ビジネスプロジェクト
- 国際協働系プロジェクト実習：世界遺産と危機管理、世界遺産と貧困削減、世界遺産と持続可能性、世界遺産と地域アイデンティティ

プログラムの修了要件は、人文社会と人間総合が 15 単位、ビジネス科学は 10 単位です。それを履修すればプログラム修了書を付与されます。様々な工夫で教育の質を保証していこうとしています。



スライド 6 国際交渉力強化プログラム(GNP)開講授業科目

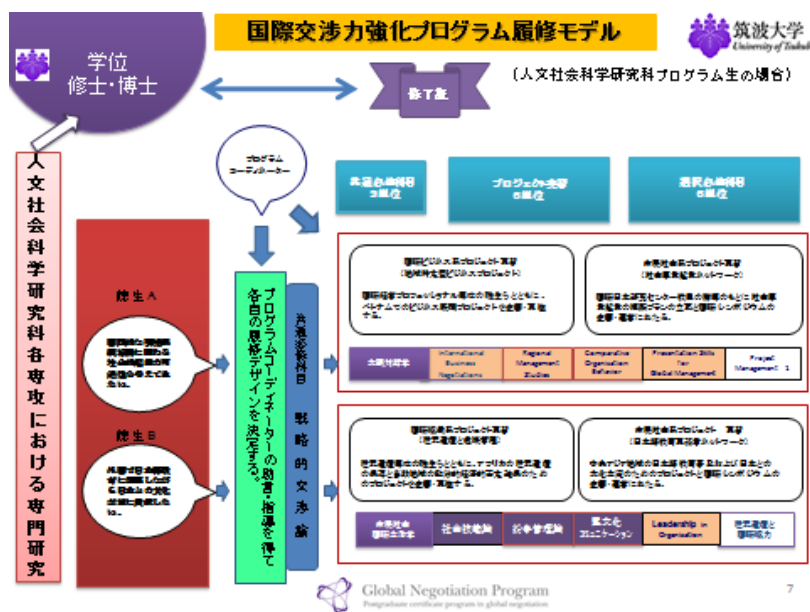
### 5) 国際交渉力強化プログラム履修モデル (スライド 7)

人文社会科学部プログラム生の例で履修モデルを見てみます。例えば社会科学系の国際公共政策専攻、国際日本研究専攻の院生 A が国際的な環境保護活動に関わる社会的起業の可能性を考えてみたいと思ったとします。教員と学生の間を結ぶプログラム・コーディネーターとまず十分議論してもらい、履修デザインを立てて、それが履修できるようにしていく。文明対話学、”International Business Management”, “Regional management Studies”, “Comparative Organization Behavior”, “Presentation Skills for Global Management”とプロジェクト・マネジメント 1 を選択します。文明対話学は人文社会で用意する科目ですが、ここではビジネス科学、社会的起業を考えるということなのでふつうの人文社会ではできないことを、ビジネス科学の学生たちと一緒に勉強してもらおう。プロジェクト実習では、地域特定型ビジネスプロジェクトと社会事業起業ネットワークを取ります。地域特定型ビジネスプロジェクトでは、ベトナムに行って模式的にいろいろな企業展開を考えます。

院生 B は、外国で日本語教育に従事しながら日本との文化交流に貢献したいと考えました。

市民社会国際交渉学、社会技能論、紛争管理論、異文化コミュニケーション、”Leadership in Organization”，世界遺産と国際協力を選択必修科目から選択します。プロジェクト実習では、日本語教育実務者ネットワークと世界遺産と危機管理を取ります。日本語教育実務者ネットワークをメインにただ日本語を教えるだけでなく日本からの発信を行いたいという人に向けてメニューを考えます。

科目とプロジェクト実習の履修内容は、プログラム生の興味とモチベーション、必要に応じて全部違います。実際には大変ですが、学生も certificate を取るだけで、教員も学位取得までの責任を取るわけではないから、教員が失敗しても学生が失敗してもお互いそれを糧にしていこうというスタンスのものであります。



スライド7 国際交渉力強化プログラム履修モデル

6) GNP における e ラーニングの状況

スライド 8 はオンデマンド配信の画面です。500Kbps,1Mbps,2Mbps の動画を作り、情報量がどれくらいのが一番見やすいか、オンデマンド配信した場合に学生の端末にいったときに操作できるか、どれが一番動かしやすいかなど、なかなか苦勞があります。


スライド 9 の授業風景①は、個別の選択必修科目をビデオ収録してコンテンツ化するための授業を行っているところです。プログラム生とプログラム・コーディネーターが映っています。チュニジアの元駐日大使の方がゲスト講師をしてくださっています。このように相互に乗り入れてテーマについて話をして学生もそこに参加をしてくる。画像は3つのソースを映せるのですが、予算上音声ソースは1つだけなのが悩みです。(スライド 8,9)




筑波大学  
University of Tsukuba

### GNPにおけるeラーニングの状況(1)

■GNP授業配信システム  
ログイン画面(ログイン後)



■オンデマンド授業再生画面



※ログイン認証には学生・教員とも筑波大学統一認証(Shibboleth)を使用。  
※500Kbps、1Mbps、2Mbpsの動画(各3分)を作り、問題の少なかつた1Mbpsで配信開始。

Global Negotiation Program  
Preparation center program in global negotiation

スライド 8 GNP における e ラーニングの状況①

筑波大学  
University of Tsukuba

### GNPにおけるeラーニングの状況(2)

■授業風景①  
(市民社会系交渉論(2)第2回より)



■授業風景②  
(市民社会系交渉論(2)第3回より)



Global Negotiation Program  
Preparation center program in global negotiation

スライド 9 GNP における e ラーニングの状況②

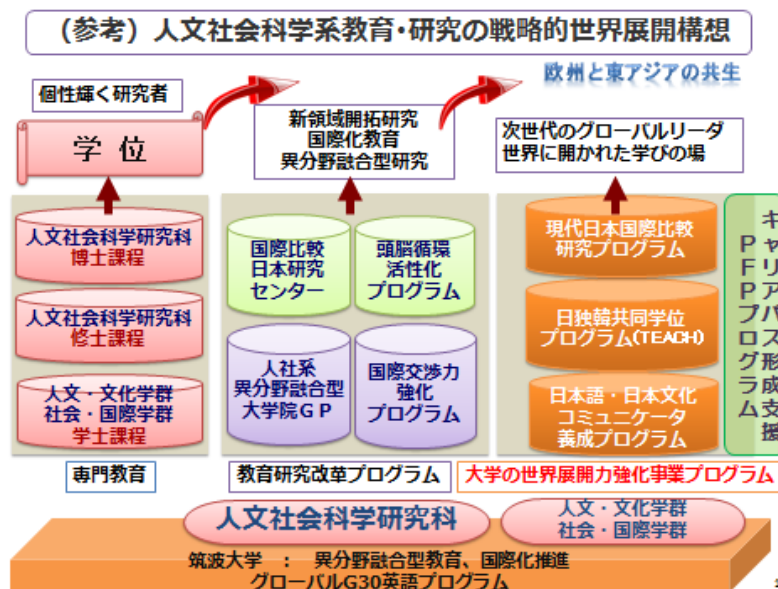
### 3. 現段階での問題点・反省点・課題

現段階での問題点を書き始めたらくさん反省点がありましたので、項目だけ挙げました。

- (1) 準備活動の問題
- (2) 授業収録・配信に関する問題
- (3) 既存の諸規定との衝突の問題
- (4) 運営体制の問題
- (5) 履修上の問題

まだ決してスムーズに万端うまくいっているわけではありません。2011(平成23)年は1期生なので、学生に対して君らはオンデマンドを利用できない、君らがオンデマンドを作るのだと言って、お互いに苦勞しながらやっております。

参考までに人文社会科学系教育・研究の戦略的世界展開構想(スライド10)です。



スライド 10 (参考)人文社会科学系教育/研究の戦略的世界展開構想